

## 例1 【要旨】の例

今回、眼球運動と眼位の異常を伴うデュアン症候群が要因で発症したと考えられる脊柱側彎症の一症例に対し、眼位を矯正する斜視手術を施行した。

その結果、初診時の Cobb 角が 32 度であったのに対し、術後 1 年で、Cobb 角が 11 度と側彎が大きく改善した。このような結果から、デュアン症候群による眼位の異常が頸部肢位の異常（回旋や屈伸）を引き起こし、これが脊柱側彎の原因になっていたと考えられた。このため、今回、眼位を矯正する手術により頸部肢位が変化し、脊柱側彎の改善に繋がったと推測された。

今回の結果から、頸部肢位が脊柱全体のアライメントに大きく関与していることが示唆された。こうしたことから、臨床においては、脊柱の変形やアライメント異常を局所的な視点だけで捉えるのではなく、多角的な視点が必要であると考えられた。

上記の例では、1 文目で背景を述べています。ここまでが、序文的要素にあたります。その後、【症例の紹介】【経過】【考察】など本文で述べている内容を簡潔にまとめて紹介しています。これらが、結論的要素にあたります。このように、序文的要素と結論的要素を組み合わせ、論文全体の概要が大まかにわかるような【要旨】を書き上げます。

## 【はじめに】について

【要旨】とは別に通常は論文全体の“書き出し”となる文章が入ります。【はじめに】は読み手の興味を惹くことを目的とし